

# ティーチング・ポートフォリオ

健康科学大学 健康科学部 リハビリテーション学科

助教 岡 猛

## 1. 教育の責任

私は健康科学部 リハビリテーション学科 作業療法学コースの教員として、専門科目を担当している。過去1年間の担当と授業科目は以下の通りである。各授業のシラバスは健康科学大学のホームページに公開されている。主要な担当科目は、身体障害における作業療法の科目を担当している。そのほか、演習授業も担当している。

2022 年度

科目名	時期		受講者
運動学実習	2 年後期	必修	28
身体作業療法評価学演習	2 年前期	必修	28
身体障害作業療法治療学演習	3 年前期	必修	41
作業療法演習 I - 1	2 年前期	必修	28
作業療法演習 I - 2	2 年後期	必修	28
作業療法演習 II - 1	3 年前期	必修	41
作業療法演習 II - 2	3 年後期	必修	38

### ・授業外活動

本学での授業の他に、以下のような活動をしている。

- 1) 研究・動物実験委員
- 2) 日本作業療法士協会会員
- 3) 山梨県作業療法士会員
- 4) 日本公衆衛生学会会員
- 5) 日本疫学会会員
- 6) 河口湖町介護予防一体事業の講師
- 7) 学生募集委員
- 8) 広報委員

1-5)の活動において、授業内において作業療法士をはじめ健康に関わる最新情報を授業内で伝えつつ、研究など学生自身が持つ興味を最大限に引き出せるようなかわり方や必要時には研究を一緒に行うことが出来る。

6)の活動において、学生が地域での予防リハビリテーションの現場を見学することやコミュニケーションや体力測定のリハビリテーションなどで予防リハビリテーションを体験することが出来る。

## 2. 教育の理念・目的

本学は、様々な総合的問題に立ち向かうことができる問題解決力を備えた人材を養成するため、「豊かな人間力」、「専門的な知識・技術力」、「開かれた共創力」の三つの教育目標を掲げている。

作業療法教育において、国家試験に合格させるまでの学力や専門知識はもちろんのこと臨床に必要な思考力を養うこと、チーム医療を意識して 共感力や協調性を持ってコミュニケーションを行うことを教育理念としている。

### 1) 臨床に必要な思考力の育成

知識や技術などを持っていたとしても、臨床や社会においては同じシチュエーションは限りなく0に近い。そんな中、しっかりと課題や問題解決するためには知識・技術をどう活用するかの思考力が重要になるのではないか。これらを培うために教員側からの情報だけではなく、それらを活かして自身でアウトプットする中で思考する機会を得て育成につなげていく。

### 2) コミュニケーションに必要な共感力や協調性の向上

作業療法の臨床に出ると、目標は同じだがアプローチ方法が違う多職種や同じ部署の中でも先輩後輩などスタンスが違う人々と接して最大限に自身の作業療法の効果を活かすためには多くの方々と協調して理解して接することが重要になっていく。また大学時代にも勉学やプライベート人生を謳歌するためにも共感力や協調性というものは必要不可欠となり、それらを自然に図れるようなかわりが出来ることを意識して教育を展開していく。

### 3) つながりを意識した授業

作業療法を楽しむためには知識・技術を理解する事が重要となる。そのため、授業内では出来るだけ運動学・解剖学・生理学などの基礎医学のつながり意識して、それらが結びつき分かりやすく作業療法の理解が出来るような授業を意識していく。様々な授

業で部分的な知識や技術を学ぶことが多いと思うが、それらを土台として包括的に患者や課題を捉えることが培われるように携わっていききたい。

### 3. 教育の方法

- ・大学生がアウトプットやグループディスカッションを意識した授業

身体障害作業療法治療学演習では授業の最終に課題に対するディスカッションを設けて各グループが発表する機会を持てるような授業を組んだ。また、運動学実習でも基本的には自身で運動学に関する探究に基づいたグループディスカッションと発表を設けることで学生自身が各グループの中でのディスカッションやアウトプットを意識した授業を狙っている。各グループは4人程度の少人数を意識して個人個人が意見を出し合い、協調するような機会を設けることを意識した。

- ・つながりやデモンストレーションを意識した授業

作業療法の専門科目の授業の中で、基礎医学や専門医学を交えた説明を行うことを意識しており作業療法の評価や治療がなぜどういった形で選択させているかなどを理解しながら学ぶことを意識しています。加えて、身体障害作業療法治療学演習では実際の物品や腱をゴムで代用するなど構造や内容を理解しやすい授業に努めている。

### 4. 教育の成果・評価

- ・作業療法評価学演習

授業の学習内容のレベルが適切であったか、スライドの掲示方法・内容・速度は適切であったか、シラバスを活用しているかなどの評価が低かった。そのため、今後シラバスを意識した授業内容とシラバスを作成する上でより吟味して作成していきたい。また、授業は多くの評価を覚えることが多く、知識として記憶することと実際の評価を技術として行えなければいけないため授業内容が多くなってしまふ。そのため、よりポイントを絞ってスライドもより見やすく授業スピードも考慮していきたい

- ・身体作業療法治療学演習

授業の時間外にも授業に関して知識の習得に努める項目の評価が低かったため、授業以外でも課題などを検討して授業以外の時間に調べることや検討する時間を設けたい。

### 5. 今後の目標

短期目標：日々授業内容の改善に努める。学生主体の課外活動の継続。

国家試験を毎年見直すことや最新の作業療法や医学情報を更新して授業に反映させることをしていく。また、授業資料やスタイルを更新することを惜しまず常に学生が理解しやすく楽しめるような授業内容にするよう工夫をしていくことを検討する。

現在、クラブ活動を通して学生が希望している活動（主にアウトドア活動）を行っているが、これを継続していく。

長期目標：地域医療で活躍できる学生や研究マインドをもった学生の育成

教員自身が行っている地域の健康に関わる活動や研究を通して、学生自身が参加することや研究の面白さを伝えることで、将来研究や地域で活躍できる学生を育成していく。